令和７年度　学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

【重点目標１】　学習指導：創造的思考力を育むとともに、データやデジタル技術を活用して、グローバル社会で求められる資質・能力を育成する。

	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
①	データを活用することで、生徒の論理的な思考力や批判的な思考力を育成する。そのための授業の工夫を促し、研究授業等の機会を設けることで、工夫について教員間で共有する。	「論理的に考えたり主張するためにデータを活用したりすることができる」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える生徒が Ａ：９０％以上　Ｂ：８５％以上 Ｃ：７５％以上　Ｄ：７５％未満 昨年度７９．４％（7月）	7月　生徒アンケート結果 「よくあてはまる」　：２５．１％ 「おおむねあてはまる」：５４．８％ 合計：７９．９％ 【達成度Ｃ】	・昨年同期より「よくあてはまる」と答えた生徒が８．７％上昇した。より意識の高い生徒が増えている兆候だと思われる。 ・引き続き、授業や探究活動の中でデータを活用し論理的に考えたり、主張したりする場面を増やす工夫をしていく。
②	学習や部活動・学校行事などの機会を活用して、「振り返り」を導入することによって、生徒一人ひとりが自らの課題を設定し、克服しようとする力を育む。	「学校生活において、何をすべきかを自分で考えて主体的に行動している」の問いに対して「よくあてはまる」あるいは「おおむねあてはまる」と答える生徒が Ａ：９０％以上　Ｂ：８５％以上 Ｃ：７５％以上　Ｄ：７５％未満 昨年度８９．６％（7月）	7月　生徒アンケート結果 「よくあてはまる」　：３４．０％ 「おおむねあてはまる」：５３．９％ 合計：８７．９％ 【達成度Ｂ】	・昨年同期より「よくあてはまる」と答えた生徒は変動なしであったが、「おおむねあてはまる」と答えた生徒が若干（１．７％）減少した 。 ・中間層層の生徒の更なる向上のため「失敗してもいいから、とにかくやってみる」ということを授業、部活動、学校行事といったあらゆる場面で伝えていく。
③	適切な発表技術等を生徒に教えるとともに、自分の意見や調べたことを発言・発表できる場を授業や学校行事で設定する。	「授業を通して表現力が高まった」の問いに対して「あてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える生徒が Ａ：９０％以上　Ｂ：８５％以上 Ｃ：７５％以上　Ｄ：７５％未満 昨年度８７．２％（7月）	7月　生徒授業評価結果 「あてはまる」　：４１．６％ 「おおむねあてはまる」：４４．２％ 合計：８５．８％ 【達成度Ｂ】	・昨年同期より「あてはまる」と答えた生徒が５．０％近く下降した。 ・「あてはまる」と答える生徒が増加するよう、授業や探究活動で心理的安全性を担保しながら、自らの考えを表現する機会を増やす等一層の工夫をしていく。
④	生成AI等のデジタル技術を活用した授業やデータを活用した課題研究等の探究活動を通して、創造的思考力を育む。	①「生成AIやデジタル技術を活用した授業や探究活動を通して、自ら考え、課題を探究し、学びを深めることができた」の問いに対して「よくあてはまる」あるいは「おおむねあてはまる」と答える生徒が Ａ：７５％以上　Ｂ：６０％以上 Ｃ：５５％以上　Ｄ：５０％未満 新しい質問項目 ②「授業や探究活動を通じて、新しいアイデアを考えたり、自分の考えを表現したりする創造的思考力が高まったと感じる」の問いに対して「よくあてはまる」あるいは「おおむねあてはまる」と答える生徒が Ａ：７５％以上　Ｂ：６０％以上 Ｃ：５５％以上　Ｄ：５０％未満 新しい質問項目	①7月　生徒アンケート結果 「よくあてはまる」　：３６．３％ 「おおむねあてはまる」：５１．１％ 合計：８７．４％ 【達成度Ａ】 ②7月　生徒アンケート結果 「よくあてはまる」　：３５．３％ 「おおむねあてはまる」：５５．４％ 合計：９０．７％ 【達成度Ａ】	・多くの生徒が探究的な学びの中で、課題を見つけ主体的に学ぶ力を実感していることが分かった。デジタル技術や生成AIの活用が、本校の教育活動に浸透しつつあり、一定の効果を上げている。 ・生徒の９割以上が、授業や探究活動を通じて新しいアイデアや表現力を育んでいると回答。本校の授業や探究活動が、創造的思考力の育成という点で成果的であることが認められる。

学校関係者評価委員会の評価	・表現力の向上については、文章で表現すること等も含め、「表現力」という能力をもう少し広義に自分を表現することと捉えればよいのではないか。 ・ＡＩの活用について、これからの社会では生活していく上でも仕事をしていく上でもＡＩを活用するスキルが必要となる。今後授業のカリキュラム以外のことでも扱っていく必要があるだろう。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・将来社会の中でリーダー的役割を担うことが求められている本校生徒には、常に発言したり、まとめたりする素養・気質を発揮する機会を高校生活のうちに数多く設け経験させたい。 ・ＡＩの活用に加え、自ら問いを立て、得られた情報を見極める力の重要性を意識しながら日常的にＡＩに触れていく機会を設けていく。

令和７年度　学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

【重点目標２】　進学指導：生徒の進路意識の成熟を促し、高い目標を強い意志をもって実現する生徒を育成する。

	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
①	将来にむけて、一人一人のキャリアビジョンの発達を促すため、さまざまな進路行事を通し、文理選択や学部学科選択、将来について広く考える機会を設ける。３か年を通して、系統だったキャリア教育を、時宜を得た適切なかたちで行う。	全学年、「前より自らの将来のキャリアについて深く考えるようになった」と答える生徒が Ａ：７５％以上 Ｂ：６０％以上 Ｃ：５５％以上 Ｄ：５０％未満 昨年度９１．６％（7月）	7月　生徒アンケート結果 「よくあてはまる」　：４９．８％ 「おおむねあてはまる」：３９．２％ 合計：**８９．０％** 【達成度Ａ】	・１年生は２学期の文理・コース選択にむけて、１学期を重視し、総合的な探究の時間でも「キャリア研究」を行い、「研究」まで意識して、ライフプランや将来について考えるだけではなく、系統立ったキャリア教育を適切な時期に行うことができている。 ・その意識を２年次により具体的なものへと昇華させるような取り組みとなるように、３年間見通したプランのもと、適切な時期に実施できるよう準備していきたい。
②	保護者懇談や保護者対象の進路説明会、生徒への面談を通して、生徒の進路に関して保護者と十分情報交換を行い、信頼関係を築く。 特に３年生の保護者には５月及び８月に進路説明会を行い、新課程入試について、本校の実績を踏まえて説明する。１年生の保護者には、７月に進路説明会を行い、文理選択に対する十分な情報提供を行う。	「本校の進路指導や保護者への情報提供は適切であるか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える保護者が Ａ：９０％以上 Ｂ：８０％以上 Ｃ：７０％以上 Ｄ：７０％未満 昨年度９２．７％（7月）	7月　保護者アンケート結果 「よくあてはまる」　：２６．９％ 「おおむねあてはまる」：６６．９％ 合計：**９３．８％** 【達成度Ａ】	・「よくあてはまる」の割合は昨年から１．８％、一昨年からは８．５％増加している。 ・３年生の保護者に対しては、５月に第１回、８月に第２回の説明会を実施した。１年生の保護者に対しては、文理選択やコース選択に関する情報を早期に生徒・保護者に提供できるように７月に開催したため、１年生の保護者の割合が増加していると考えられる。 ・今後は保護者アンケートをふまえ、メール配信も併用し、より的確な進路情報の共有に努め、保護者のニーズに応えたい。
③	担任の生徒面談や、学年集会・進路講演会・進路説明会等の各種進路行事を有効に活用し、生徒の現状を把握し、生徒の意欲を高めるとともに、具体的にやるべきことを明確にし、共有する。 難関大志望者に対し、２年次から、意識づけ・学習サポート・集団づくりを進路指導課・学年団で連携し、早期から取り組む。	①３年生の９月段階で難関大・金大を志望する生徒が Ａ：６５％以上 Ｂ：６０％以上 Ｃ：５５％以上 Ｄ：５５％未満 ② ３年生の９月段階で、生徒の学習時間（授業以外）の平均が Ａ：週45時間以上（平日5、休日10時間換算） Ｂ：週34時間以上（平日4、休日7時間換算） Ｃ：週27時間以上（平日3、休日6時間換算） Ｄ：週29時間未満	９月初旬に志望校調査・学習時間調査を実施予定	・６月進研共通テスト模試では、２４７名の生徒が難関大または金沢大を志望しており、全体で６４％を超えている。（昨年度２５３名） ・９月初旬に志望校調査・学習時間調査を実施予定。
④	生徒個々の志望や学力にあわせた、各大学に応じた入試対策を補習や個別添削指導を行い、進路実績の向上を図る。 近年入試で求められる情報処理能力や表現力、思考力を高める授業へと各教員が改善する。	現役合格者数が 金沢大８０以上、難関大３０以上 Ａ：両方を満たす Ｂ：どちらか一方を満たす 金沢大７０以上、難関大２０以上 Ｃ：両方またはどちらか一方を満たす Ｄ：両方を満たさない		

学校関係者評価委員会の評価	・全国的に情報系への進路選択が少ない現状や理系を志望する女子生徒が増加傾向にある中で、社会の動向を踏まえた多様なキャリア教育が必要となってくる。 ・多様化する大学入試において、推薦入試に対する取組も含めた進路指導の在り方を考え続けなければならない。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・学校生活の中での探究的な学びを通して、生徒自身が自分の適性を知りしっかりと目標設定を行って自らの進路実現につなげていく、そこに寄り添い生徒一人ひとりに合わせた進路指導が行えるよう努力を続けていく。 ・大学入試制度も多種多様化しており、最終的に大学に進んだ後、本人の満足度や将来性を考えた時にどうなのか、という問いかけをしながら、一人ひとりに合わせて考えていく。

令和７年度　学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

【重点目標３】　生徒指導・部活動：人間形成に主眼をおいた生徒指導を行い、進学校にふさわしい部活動を追求する。

	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果（カッコ内昨年同時期結果）	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
①	勉強と部活動の両立を図るために効率的な活動を追求し、生徒の学習時間の確保や、部員が勉強に主体的に取り組む姿勢をもつような指導を工夫するよう呼びかける。また、部活動で得た自信を勉学につなげ真の文武両道を目指す。	「勉強と部活動の両立ができている」の問いに対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える生徒が Ａ：８０％以上　Ｂ：７０％以上 Ｃ：６０％以上　Ｄ：６０％未満 昨年度：７２．６％（7月）	7月 生徒アンケート結果 よく･おおむねあてはまると答えた割合 １年：７９．７％　２年：６６．６％ （７０．４％）　（７３．６％） ３年：８８．１％　全体：**７５．４％** （７７．１％）　（７２．６％） 【達成度B】	・１年生は昨年に比べ値が約９％上昇している。このままの調子で、高校での生活に慣れていってもらいたい。 ・２年生は昨年度に比べ、約７％下降している。部活動を頑張りながら勉強も取り組もうという雰囲気は感じるので、このまま顧問側からも両立する大切さを説いていきたい。 ・３年生は約１１％上昇している。勉強と部活動の両立を自信にこれからの受験に向かってもらいたい。
②	生徒が自主的に挨拶を行うよう、生徒会等の挨拶運動を継続するとともに、教職員自らが積極的に挨拶を行うことで範を示し、教職員、生徒の自覚をさらに高める。	「挨拶はしっかり行っている」の問いに対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える生徒が Ａ：９０％以上　Ｂ：８０％以上 Ｃ：７０％以上　Ｄ：７０％未満 昨年度：９２．７％（7月）	7月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 １年：９１．３％　２年：９１．０％ （９１．９％）　（９３．１％） ３年：９５．６％　全体：**９２．６％** （９２．７％）　（９２．７％） 【達成度A】	・昨年同時期とあまり変化はないが、全学年やや数値が高くなっている。 ・これまで同様、生徒会のあいさつ運動、部活動での指導を継続し、生徒の自覚を高めていきたい。
③	本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケート、個人面談・保護者懇談や学校行事等の取り組みを堅実に実施することで、いじめの予防や、早期発見を行う。	「いじめ予防や早期発見、早期対策に取り組んでいる」の問いに対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が Ａ：９５％以上　Ｂ：９０％以上 Ｃ：７５％以上　Ｄ：７５％未満 昨年度：１００．０％（7月）	7月 教員アンケート結果 「よくあてはまる」　：４０．３％ （５５．２％） 「おおむねあてはまる」：５６．７％ （４４．８％） 合計：**９７．０％**（１００％） 【達成度A】	・今年度も、学年団の迅速な面談等で、いじめにつながりかねない人間関係トラブルを把握し、その後の指導・観察等に役立てようとしている。今後も継続して取り組んでいきたい。
④	日頃からの生徒観察により、気づいたことを関係者が素早く共有することを全教職員が心がける。またチーム学校として連携し、的確な対応を組織的に行うシステムを構築するとともに外部機関と連携し、心身の調和を基盤とした生徒の人間形成を図る。	【生徒アンケート】「先生は生徒理解に務め、生徒個人の悩みにも対応している」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える生徒が Ａ：９５％以上　Ｂ：９０％以上 Ｃ：８０％以上　Ｄ：７０％未満 昨年度：９５．６％（7月）	7月 生徒アンケート結果 「よくあてはまる」　：５０．１％ （４８．０％） 「おおむねあてはまる」：４６．６％ （４７．６％） 合計：**９６．７％**（９５．６％） 【達成度A】	・配慮の必要な生徒について、教職員間で関係者との連絡を定期的に、又必要に応じてすみやかに実施しており、共通理解を図るとともに的確な対応を行っている。 ・悩みや問題を抱える生徒について、関係職員と情報を共有し、組織的に支援していく体制を継続していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・発達障害など支援が必要な生徒への取組・対応について、今の時代学習指導はもちろん子どもたちの多様なキャリア、発達的なことも含めたパーソナリティといった生徒個々の特性に対応する必要がある。外部機関と連携しながら取り組むことが大切。 ・中学校では部活動の地域移行が進んでいるが、高校でも部活動における教員の負担軽減を考えていくべきか。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・支援が必要な生徒に対しては引き続き、学校だけで判断するようなことはなく、必ず外部の専門家の意見を聞いたり、一緒にその方に見ていただいたりしながら、それを参考に支援していく。 ・人間形成に主眼をおいた部活動を行っている。必ず部活動休養日を設け、複数顧問をおくなど教員の負担軽減に努めている。生徒の成長を実感できる場が部活動の時間でもあるので、今後も生徒とのつながりを大事にした部活動運営に努めていく。

令和７年度　学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

【重点目標４】　学校組織：業務の効率化を進め、高い専門性と広い見識に基づいた協働的な教育活動を追求する。

具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
毎月の定時退校日を指定日ではなく、定時退校ウィークという形で設定し、フレキシブルな取得体制とすることで、より一層タイムマネジメントの意識を高めるとともに、ワークライフバランスを推進し、教育活動の質を高める。 SSHやSTEAM教育などのプロジェクトを推進することにより、求められる教育のアップデートをはかり、自己研鑽や協働の機運を醸成する。	①「効率化やタイムマネジメントを意識した業務の遂行に努めている。」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が, Ａ：８５%以上　Ｂ：７５%以上 Ｃ：６０%以上　Ｄ：６０%未満 昨年度：８５．０%（7月） ②「社会の変化を意識して、新しい教育に意欲的に挑戦している」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が、 Ａ：８５%以上　Ｂ：７５%以上 Ｃ：６０%以上　Ｄ：６０%未満 昨年度：８８．０%（7月）	①7月 教員アンケート結果 「よくあてはまる」　：４０．３% 「おおむねあてはまる」：５０．７% 合計：**９１．０%** 【達成度A】 ②7月 教員アンケート結果 「よくあてはまる」　：３５．８% 「おおむねあてはまる」：５９．７% 合計：**９５．５%** 【達成度A】	・「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が９１．０%と、昨年同時期より増加した。 ・昨年度より４５分授業を日課の標準としたことにより、生徒のみならず教員にとっても放課後が３０分長くなり、教員個々のタイムマネジメントへの意識も浸透してきたことで、退校時間も早くなってきた。今後も業務の効率化に引き続き努めていく。 ・「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が９５．５%と昨年度より増加した。 ・ＳＳＨおよびＳＴＥＡＭ教育推進校の指定を受け、教員間に新しい教育への意識が浸透しつつある。

学校関係者評価委員会の評価	・専門教科の各研究会等において教材やシステムの共有化を図ることが業務の効率化につながる。そのような時間を学校内のみならず学校間でも設けることが大事。 ・教員の負担を軽減するような機械を積極的に取り入れていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・業者模試の作問担当の方に、どういうねらいで問題をつくるのか、問題をつくるときにはこういう視点が必要といった問題作成の研修を実施した。今後も教員研修を充実させていく。 ・採点業務ソフトを導入しており、負担軽減につながっている。教科によっては、生徒が書いた文章添削等のAIの活用を進めていきたい。

【重点目標５】　危機管理：防災への備えを高めるとともに、大規模災害を想定した危機管理体制の整備を図る。

具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
日頃から震災・火災やその他の災害（風水害、学校への犯罪、テロの予告等）に備えて防災講話等の防災教育を行い、災害に対する意識を持たせる。また、避難訓練・防災訓練を行い、災害時に自分自身の身を守る行動がとれるようにするとともに、「共助」の意識の育成を図る。	①「防災意識が高まり、避難訓練、防災訓練に真剣に取り組んだ。」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える生徒が、 Ａ：９０%以上　Ｂ：８０%以上 Ｃ：７０%以上　Ｄ：７０%未満 新しい質問項目 ②「防災意識が高まり、避難訓練、防災訓練に真剣に取り組ませ、災害発生の折には的確に生徒を誘導、避難させることができる。」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が Ａ：９０%以上　Ｂ：８０%以上、 Ｃ：７０%以上　Ｄ：７０%未満 新しい質問項目	①7月　生徒アンケート結果 「よくあてはまる」　：４８．６% 「おおむねあてはまる」：４６．１% 合計：**９４．７%** 【達成度A】 ②7月　教員アンケート結果 「よくあてはまる」　：３４．３% 「おおむねあてはまる」：６２．７% 合計：**９７．０%** 【達成度A】	・４月実施の防災避難訓練、７月実施の地震に対する避難訓練ともに、生徒たちは真剣、真面目に取り組んでいた。「防災」「避難」に対する意識がしっかりしていることがうかがわれた。 ・教員は「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」併せて９７．０%と高い割合で訓練に参加しているが、生徒よりは低い。万が一の場合に備える、無事避難させることを想定して訓練に取り組むことが今後も必要である。

学校関係者評価委員会の評価	・自然災害的な危機に直面していく時代の中で、環境教育や防災（特に地震や水害）教育に取り組んでいくことが必要。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・防災教育については、今後も防災避難訓練の複数回実施していくとともに、防災や地域貢献をテーマとした探究活動に取り組む生徒たちが、本校だけで完結することなく他校とのやり取りの中で防災意識を向上させていくことをサポートしていきたい。